

## 第1回審議部会 会議内容

### (1) 会議内容

第1回総合計画審議部会で委員から提案のあった「人口減少による人手不足と外国人労働者の受入拡大」を踏まえ、「外国人が暮らしやすいまちづくり」及び「女性や高齢者が活躍できるまちづくり」について協議を行った。

四国中央市の現状を把握するため、オブザーバーとして3名を招聘した。

オブザーバー

尾崎誠貴氏（瀬戸中央テック協同組合 参与）

高橋和雄氏（医療法人 健康会本部 総務部長）

内藤寛子氏（公益社団法人 法皇青年会議所 副理事長）

### (2) 協議内容と委員意見

#### ①「四国中央市の人手不足の現状と課題」の説明

後期基本計画（素案）に掲載している当市の人口や就業者数の推移及び市内の外国人の現状について説明した後、オブザーバー3名から「外国人の雇用者と在留外国人の状況」、「福祉・介護現場における人手不足と外国人の雇用の現状」、「女性の活躍推進」について説明を行った。

#### ②外国人が暮らしやすいまちづくりについて協議

- ・ 娯楽施設が少ない。遊び場所がない。
- ・ 外国人が住みやすいまちは、日本人にとっても住みやすいまちであり、外国人が困っていることは、同じく日本人も困っていること。
- ・ 市内の道路標識等、外国人を増やすのであれば、外国人が見やすい標識を準備していく必要がある。
- ・ 四国中央市の方言をまとめた本は図書館にある。問題点を発信し、横のつながりを作れば、外国人にとっての不便を解消できることもあるのではないかと。
- ・ 外国人が、同じ町にいるはずだがどこにいるのかわかっていない。それがわかれば、できることがあるかもしれない。
- ・ 外国人向けでなくてもいろんな団体で、核になる人がいる。ALTは2年で、交流員もころころ代わるため、情報が広がらない。
- ・ ALT以外の人を外国人の拠点となる学校で雇い、アドバイスを行ってもらうということも考えている。長く居てもらうことを考えるべき。
- ・ 受け入れ初期と比べると大きく変化しており、携帯電話が最たるもの。日本人が日頃行っていることを普通に一緒にできるようになるといい。スマートフォンで言葉の壁をなくせるのではないかと。
- ・ 何に困っているのか、当人に聞くことが大切だと思う。
- ・ 市報もインターネット上で外国版ができれば。
- ・ 大きな病院等ではずっと案内してくれるような人がいる。そのようなボランティアを外国人にもできたらよい、それを高齢者に募ってもよいのでは。

### ③女性や高齢者が活躍できるまちづくりについて

- ・市でも女性の職場環境の改善等、政府の方針を先取りして取り組んでほしい。
- ・女性にとっては、出産が大きなポイント。
- ・男性の育休取得や企業の女性の働き方については、働きかけが大切である。子どもを産んだらお金をくれるぐらいでないと産まれない。
- ・おむつ支給も助かるが、産む前に産もうと思える政策も必要かと思う。
- ・子育てしやすい環境づくり
- ・都会の大学へ進学した後、帰ってきやすい環境づくり
- ・企業の努力によるところだが、育児休暇等の待遇が重要
- ・図書館利用者も高齢化している。大型活字本も多数用意しているが、高齢者のところに出張できるようにしていければなお良い。